

陸側遮水壁タスクフォースの設置について

平成 25 年 6 月 28 日  
汚染水処理対策委員会事務局

1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所 1～4号機の廃炉を進めていく上で、日々約400立米発生している汚染水の問題は、最も深刻な課題の一つである。汚染水の量を抜本的に低減させるためには、地下水の流入量を抑制する必要がある。このため、本年4月より開催された「汚染水処理対策委員会」の取りまとめにおいて、東京電力が取り組んでいる地下水バイパス、建屋近傍のサブドレンによる地下水位の管理等の対策に加え、追加的な対応策も含めて重層的に施策を進め、信頼性の高い全体計画とする必要があり、凍土方式による遮水壁の設置が適切であるとされた。

今後、遮水壁について、その早期実現等のため、土木、水位管理の専門家に加えて、凍結工法の専門家が参画する実務的なタスクフォースを汚染水処理対策委員会の下に設置して、概念設計、施工計画の策定等の評価、進捗管理等を行う。

2. 陸側遮水壁タスクフォースの構成は、次のとおりとする。なお、必要に応じて、メンバーの追加を行う。

主 査:	大西 有三	関西大学 特任教授、京都大学 名誉教授
	西垣 誠	岡山大学大学院 教授
	伊藤 譲	摂南大学 教授
	石川 達也	北海道大学大学院 准教授
	藤田 光一	国土交通省国土技術政策総合研究所 研究総務官
	丸井 敦尚	(独)産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 総括研究主幹
	鎌田 博文	(一社)日本建設業連合会 電力対策特別委員会 委員
	赤川 敏	低温圏工学研究所 代表
事務局:	新川 達也	資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室長